



洋書輸入協会会報

Vol. 31 No. 10 (通巻365号) 1997年10月

理事会報告

10月24日(金)

(一)収支報告 9月分収支について総務委員長より報告があり承認した。

(二)セミナー開催 東京三菱銀行調査役・葉山英行氏を講師として11月17日(月)“金融ビッグバン”について第2丸善ビル会議室での開催を決定した。

(三)新年賀詞交換会 98年1月9日(金)パレスホテルで6時より開催することとした。

(四)理事会方針策定「共同物流提案」に先立ち、特別委員会答申に対する理事会方針を発表することとした。

(五)事務局長交代 神田事務局長の任期満了に伴い、予て総務委員会より推薦の高橋総務副委員長(丸善)を後任とする案を可決した。なお、交代は12月中とした。

海外ニュース

米国の書籍輸出先ランキング

米国商務省の試算によると、1997年上半期の米国の書籍輸出量は、前年度を4%上回る8億8,640万ドルとのことである。同期間における輸入額は、前年度2.5%アップの5,802万ドルであった。

主要輸出先のなかでは、ドイツが最も大きな伸びを記録し、その輸出額は前年度21.7%増の2,680万ドルであった。輸入額でトップのカナダは、輸出額でも順調な伸びを示し、11%近くアップした3,751万ドルだった。輸出先の上位10カ国のうち、この上半期で輸出額が前年より減ったのはわずか2カ国で、韓国向けの輸出額は約20%

ダウンの1,340万ドル、そして日本向けが6,620万ドルで前年度より11.8%減少した。この上位10カ国への輸出額が全体の80%を占めている。

分野別に見ると、辞書類が最も大きな上げ幅を示して175%アップの600万ドル、そのうちカナダ向けの輸出が370万ドル、教科書類の輸出額が11%アップの1億5,580万ドル、学術書が10.6%アップの2億8,200万ドルであった。また、ペーパーバックが6%アップの1億200万ドル輸出されたのに対し、ハードカバーは24.6%ダウンの7,100万ドルに減少、宗教書も6.6%減って2,200万ドルに止まった。

【PW/Sept. 8, 1997より】

米国書籍輸出金額(1997年1月～6月)

(\$単位=百万)

国名	1996	1997	前年比
カナダ	\$338.4	\$375.1	10.9%
イギリス	101.1	104.3	3.1%
日本	75.0	66.2	-11.8%
オーストラリア	57.5	58.7	2.0%
メキシコ	28.5	30.8	7.8%
ドイツ	22.0	26.8	21.7%
シンガポール	16.2	18.1	11.6%
台湾	14.9	17.1	14.4%
オランダ	14.8	16.8	13.7%
韓国	16.8	13.4	-19.9%
上位10カ国合計	\$685.2	\$685.2	6.1%
全世界合計	\$852.4	\$852.4	4.0%

目次

理事会報告	1	Database Tokyo '97 報告	3	英語は3,4割しか分からない? ...	5
海外ニュース	1	うちの会社	4	広 告	8
パソコン外論考(其2)	2	文化厚生委員会だより	4		

パソコン外論考 (其2)

宇田川一彦

◆紙に描いた月でも/It's only a paper moon

子曰、巧言令色、鮮矣仁、

The Master said, It is rare, indeed, for a man with cunning words and an ingratiating face to be benevolent.'

(論語/学而・Confucius; The Analects/Book I)

【超拙意訳；先生は言いました。「巧妙で、飾り付けた言葉で、表情も豊かにしゃべる人。こんな人には、少ないんだなあ、人間の本質(仁)を持っている人は！」】

【拙感；pomade (本人はjellと言っているそうだが) ベタベタどこぞの国の首相、ゆっくりと大した内容もないのに、もったい付けて修飾語いっぱい演説すれど実行なし。たまに実行すれば大ボケ。まあ、耳から毛？・ヒゲ？(髭/髯/鬚系でなくやはり耳毛か？←筆者は超気持悪いが、外国人はどう感じる？)をはやし(出し)ている？財務系大臣も、巧言令色、鮮矣仁ですなあ。】

前口上が長くなりましたが、最近日本初のsemiプロ？のWomen's Marathonで名をあげた元「転職社」社員・兼現囑託？を「走る広告塔」にした3◇社の車広告を見て、非役員捕見、冒頭の文を思い出したのです。

と、同時に車の機能広告とパソコンの広告とは結構類似しているのに気がついたので。まあ、車を購入するのも、パソコンを購入するのも同じ様なものですから。で、今回はパソコン購入の基本の基ということで…。

今なにかと、喧しい『二酸化炭素(CO₂)』の排出削減に向けて各自動車メーカーが、燃費向上=CO₂削減という構図に躍起になっています。で、件の3◇の宣伝惹句『燃料30%向上・ガソリン直接噴射エンジン搭載』の新型車は、旧型車で9.5km/per. liter → 12.4kmにアップしたということだ。【こんな比較宣伝は、本来同業他社の競合人気車種とかでやったらと思うが、変な自主規制】で、比較に使用した新型車は、当然重量的に嵩む助手席 air bag なし。ABS/anti-lock brake system なし。ラジオなし(ひょっとして、スペアタイヤなども積載なしだったり…)。したがって当該車種中最低価格の、ようはいちばん軽い形式の物を使用(もっと阿漕なことは、この型版車は受諾生産のみ。まいった、うまい!! 売の気のない型版車を単に比較用に設定する、いい根性)。

この手の広告はパソコン関係でもあります。かつてはパソコン専門誌のみの広告が多かったのですが、最近是一般誌(紙)にも登場しています。あまりパソコンに興味のない方でもご覧になられたことがあるかと思います。

パソコン選びは、まず「型」から入ります。

パソコンには、①デスクトップ型(これには、広告写真で見る横長のデスクトップと縦長のタワー型=ミドルとフルタワーがある)←車でいえば乗用車(sedan/coupe/station wagon/sportまで含む)②ノート型(これには、palm-topなども含む)←車でいえばpower upした軽乗用車か。パソコンは、この2種類。車は用途等で分類可ですが…。

で、既述の「広告」に戻ります。パソコンの場合は、車の燃費向上系でいえば、省電力系にあたります。まあ、ノート型パソコンで長時間 battery が、200%アップとか、3倍とか云々してありますが…。しかし、特別の目的がない限りこの②ノート型は推奨しません。パソコン買うなら、①デスクトップ型です。理由は追々と。

そこで、パソコン(デスクトップ型)の広告では主として、前号で述べましたCPU(中央演算処理←車でいえば、engineか)の(a)処理速度upのものが多いです。まさに、パソコンは「速いが価値」。この見極め方は、CPUの世代と動作クロックの速さ(次号で見ていきたい)です。

ついで、(b)価格です。もう後は、今や必需品のCD-ROMドライブの速度がとか、グラフィックボードの解像度・speedの相違とか、あと標準で搭載されているmemoryの量とかで、価格差広告してあります。

まあ、広告の「巧言令色」的要素の部分は、

・世界に冠たる日本パソコンメーカーの広告に見られる車のラインアップ方式←要は、排気量別でいえば軽・小型・中型・大型 豪華無用絢爛たる内装高級車(こんな金があったら外国のものをリコメンドします)

このパソコン版は、入門機(カッコよくentry machineと呼んでいます)、multi-media machineとか勝手に名をつけ、入門機とか称するのは、安いので20万円を切るイチキュッパとか値札がついています。【入門機。こんなパソコンは、世界にはない、と断言します。手を出してはダメ! あとで、「何か」やりたいという、様々なことで臍を噛みます】《異論反論・この機械を買った友人は文句を言っていないが》【それは、使わずにホコリを被っているからです】(この項続く・乞御期待)

Database Tokyo '97 報告

丸善(株)MASISセンター 小野 英生

本年9月17日から19日まで、有楽町の東京国際フォーラムにおいて Database Tokyo '97 が下記のとおり開催されました。天候は晴れ、曇り、雨など様々でしたが、会場が旧都庁跡地に建てられた新施設で交通の便もよく、見物気分も手伝ってか予想を上回る来場者数で盛況のうちに終了しました。

名称: Database Tokyo '97

会期: 1997年9月17日(水)～19日(金) 午前10:00～午後5:00

会場: 東京国際フォーラム展示ホール(東京都千代田区丸の内)

主催: (財)データベース振興センター、日本データベース協会

共催: 日本経済新聞社

出展者: 101社260小間(主催2団体を含む)(前年97社219小間)

(ゾーン別) ●総合ゾーン 55社151小間(前年57社)
(商用DBの作成機関、ディストリビューター、代行検索業者など)
●データベースシステム構築ゾーン 25社55小間(前年19社)
(ソフトウェア、検索システム、イントラネット構築、文書管理など)
●マッピング・データベースゾーン 12社25小間(前年3社)
(デジタル地図データベース、GISなど)
●特許データベースゾーン 9社20小間(前年11社)

来場者数: 総来場者数 37,259人(前年来場者数34,014人)

開会当日の開会式では衆議院議員、主催者、共催者、来賓の方々からの挨拶、祝辞、テープカットで始まりしました。事務局からの発表によれば、来場者数は37,259人で前年比率約10%アップでした。一昨年は35,175人、昨年は34,014人と来場者数が一旦減少しましたが、今年はやはり会場が良かったせいでしょうか、過去最高の方々が来場されました。来場者の内訳はマスコミ・情報サービス、情報処理、通信関係が29.2%、電気・機械・医学・科学などの製造業関係が27.1%でこれらで過半

数になります。

一方、出展者も4社増加しています。特許データベースゾーンのみ2社減少しているのは、2年に一回東京で開催される特許情報フェアが本年11月に開催されますので、その影響によるものです。また、昨年出展していなかった新規出展は32社67小間でした。

今年の傾向および特徴は、インターネットを利用した商品が多く見られました。昨年は「インターネット・コーナー」という特別ゾーンを設け6社の出展がありました。今年はその他のゾーン出展内容がインターネット/イントラネット関連のサービスでしたので、あえてインターネット関連の特別ゾーンを設けなかったそうです。

インターネットを利用すれば様々な情報を無料で入手できるサイトは多数ありますが、出展各社のインターネットを利用したサービスはほとんど有料のサービスであり、Push 技術を応用した情報通信、クレジットカード決済による特許情報検索出力、ブックショッピングなど、インターネットを利用した有料のネットワークビジネスが既に定着しています。

商用データベースサービスに関しては、エンドユーザー向けのインターネットを利用した Web サービスが多数展示されていましたが、どちらかというとサーチャーや検索プロ向けの従来からの通信版データベースサービスやCDROM も利用自体は減少せずに伸びています。

すべてがインターネットを利用したサービスに移行することはなく、各種サービスが共存していくでしょう。今後はユーザーが自分のニーズに合ったサービスを選択でき、提供者もユーザー・ニーズを的確に捉え様々な提案をできる時代になりました。以上



三省堂書店

当社は、1881年（明治14年）4月8日現在の神田神保町一丁目に古書店として産声を上げました。今年で創業117年目に入りました。社名は、曾子“論語”の「我日三省吾身、…」に由来しております。当社のロゴのSSDは、幅広く知られておりますが、また創業年度の1881を電話番号の下4桁に積極的に取り入れており、本社総務課や新店舗を中心にその番号を見ることができます。

本社の組織変更で営業部門を2本部制に致しました。営業第一本部は、当社の中核の店舗を総括しております。1995年大阪の梅田と天王寺に出店、昨年は相模大野、町田更に本年に入り八王子に新規出店を果たしました。第二本部は、その配下に洋書・文具の店売部門、企画事業部及び外商統括部があります。第二本部でも本年9月に洋書と紙のコンセプトで“モンパピエ”

というおしゃれな店を表参道に出店致しました。

外商統括部は、営業所と売店管理課で構成されております。営業所は、学校・企業への外商活動を、売店は、官公庁・大学・企業に出店のミニ店舗です。一番新規のものでは、昨年新宿のNTT内にオープン致しました。外商営業では、今まで洋書に関しては、文学・語学のイメージがありましたが、数年前より新たに生命科学へと進出、結果として社会科学、自然科学分野での営業効果も現れてきました。

現在、大型店の出店競争が、大きな話題になっておりますが、当社も長い伝統で培い得たものを生かし、お客様へのきめ細かいサービス・対応に努めたいと思っております。

（沼尻 卓）

文化厚生委員会だより

釣り同好会「あじ釣り」

10月4日、半年ぶりの恒例釣り大会が行われました。獲物は、今が旬の大アジ。場所は走水沖です。前日、天気予報を聞く為177にTEL。午前中は晴れ、後、曇り。雨の確率20%。波の高さ1.5m、後2m。ヨシ！。天候はまあまあ。そして最近の釣況を知りたくて船長さんにTEL。船長さんの第一声「坊主覚悟で来たほうがいいよ。」（正直な船長さん）ガーン。自分の耳を疑ってしまう。釣り人は前日天気予報を聞いたり、船宿に電話をして釣況を聞く人が多いので、他の人達も内心期待と不安で参加したのではないのでしょうか。そして結果は？、それは後のお楽しみ。7時半すぎには、参加者は16名中13名が到着しており、8時の出船を、今か今かと待機しています。そして8時20分、いつ来るのか分からない欠席者3名を見限って出船する事に決定。航程約20分、その間、仕掛けを用意する人、タバコを一服する人、回りの人と今日の予想をする人、みんな胸をワクワクさせながら、釣り場の到着を待っています。そうこうしているう

ちに、船長さんが、エンジンを止め、錨を下し、「みなさん、どうぞ始めてください。」の掛け声で一斉に糸を垂らすのですが、釣りというのは、船の坐る場所で釣果に大分差が出ます。結果から申し上げると私が一番いい場所の大ドモ（最後部）が当り、坊主続出の中9匹釣り上げ優勝したのですが、テクニックの差より、やはり場所ではないのでしょうか。実は前回のキス釣り大会でも大ドモが当り、優勝したのですが、私はいつもいい場所が当り、少し申し分けなく思ってます。（という事は私はただクジ運がいいだけかも）。そうこうしている内、納竿の時間がきてしまい、ゼロの人も最後まで頑張っていました。が、帰港という事になり、The END。成績は先程の通り、私が9匹で優勝。2位が5匹で（株）ユサコの石田さん（初参加）。3位がこの大会の幹事でもあり、いつも御世話になっている、太陽図書貿易（株）の小松さん。4位が2匹で、大洋交易（株）の鈴木さんと広瀬さんでした。あまり釣れませんでした。が、釣果は別にして、釣りは、潮風に当たり、健康にもよく、親睦も深まりなかなかいいものです。まずは報告まで。

大洋交易(株) 塚本 記

英語は3、4割しか分らない?

島岡 丘

10月6日付けの茨城新聞に英国劇団ホワイトシアターが、Peter Griffith 作、*the Tiger of the Sea* の初公演をした記事が載っていた。これは英国大使館後援で中学生に実用的な英語の楽しさを知ってもらうために日本各地でも行っているそうである。このストーリーは海賊にさらわれた内気な羊飼いの Robin を恋人が救い出す内容である。登場俳優は4人で約1時間もの。この演劇の特徴は役者と観客が一体感になって楽しむところにあるようだ。例えば、舞台上げられた客にバケツ一杯の水をかけようとするが、水だと思ったら、バケツに入っていたのは花吹雪だったりする。

劇団 White Theatre は巡業方式英語劇団として 1978 年にイギリスの誕生し、ヨーロッパ諸国（ドイツ、デンマークなど）で上演しているが、すでに25万人以上の生徒が観ているようで、日本でも8000人の生徒が観劇しているとのことである。

戸の生涯学習センターで観劇した中学生に、インタビューで感想を聞いたところ、分からないセリフもあったけど、演技で意味が分かる面白い劇だった、と述べた後、言葉の理解度は「3、4割ほどだった」というのが大部分の答えだったようだ。

職業柄、ここで問題にしたいのは中学生が英語の3、4割しか分らなかったというところである。観劇した中学生が3、4割分かって楽しかったのなら、全部分かればもっと楽しいのと思う。セリフに使われている単語はわずか240語種類だそうである。中学の英語教科書は必修語が507語であり、中学3年間で1,000前後の語数を学ぶ。ここで英語を教えておられる先生方はこれらの生徒の3、4割しか理解できなかった原因を探り解決の方向性を探る必要がありそうだ。

英語が聞いてわかりにくいのは英語のリズムと弱化の現象が十分教えられていないせいではないかと思う。ある単語の音が一部消えてしまうのだから、どんな音が消えるのか知っておいて損なことではない。

子音のうちもっとも落ちやすいのは his, him, her の h、have, has の h である。I could have danced all night. (踊りあかしてもよかったのよ) は

「アイ ク^ハダヴ ダンス^ハトウ ナイト」
のように発音されるので、have の発音が一つしかない

と思っていると聞き逃してしまう。Spring' s come. などの has も同様である。また th も n の後では聞こえないことが多い。これは th 音自体が弱いので n に飲み込まれてしまうからである。英語の前置詞句で on the wall, in the sea, and that, in them などではむしろ、次の日本語に近い発音であろう。

「オン^ハナ ウォーウ、イン^ハナ スィー、ァン^ハネ アット、イン^ハナム」

また、n の次の t も消えることが多い。アメリカ人の発音で、アメリカ大統領の Clinton の発音は「クリン・ン^ハ」のようだ。同様に、international は「インネアネアシュヌウ」のようになり、internet は「インターネット」でなく、「稲ネー」のように発音されるようだ。

アメリカの辻強盗は「ハウルドアップ」とは言わないようだ。どう言うか聞いたところ、Stick them up. (them は hands のこと) を用い、Stick' em up. のように言うそうである。これをカナ表記で表すと

「スティッ^ク^ハマップ」

のようになり、これを強弱をつけてやや早く発音すると英語らしい英語が生まれると思う。

母音の脱落は l の前に多い。ミュージカルは「ミュウズィクウ」、クラシカルは「クレアスィクウ」のようになる。また、station は「ステイション」のように発音される。

英語を覚えることは読んで訳することが出来ればよいともし考えているクラスがあるとすれば、そのクラスの生徒から音声を通して演劇を楽しむ機会などを奪ってしまうことになる。東京の高田の馬場の近くに Shakespeare 時代の Globe 座をモデルにして完成した日本のグローブ座があるが、英文科の大学生を毎年定期的に観劇する年間プログラムをもっている大学もある。言語は本来音声で獲得するべきもので、綴り字を覚えるのはそのあとでもよいはずだ。文字文化の発達した日本ではもう少し音声の方に力を注いでも良さそうである。

こういう筆者も始めは英語が聞き取れなくて困ったことがある。ロンドンで *My Fair Lady* を天井桟敷の席で観たことがあったが、観客席でげらげら笑っているのに1留学生の私には何が面白いのか分からず悔しい思いをした。おそらくロンドン下町のコクニー訛まりの方言が多く含まれていたのであろうが、どの方言もそれぞれ体系性をもっているのだから、方言混じりの英語が分からないのは理由にはならない。一般のロンドンの人たちが

がよく分かっているのに、何年も英語を勉強した人間が分からないという、その悔しさがきっかけで、この次から舞台に近いところに席を取ることにした。たとえそれが上等の dress circle の席であってもケチはしないで観ることにしようと決めた。

たまたま、Old Vic Theatre が私のいたウェールズの Cardiff の町にやってきて、Oscar Wilde の *The Importance of being Earnest* を上演する情報を得た。そこで、前もって原文をよく読んでおき、内容を把握していた。実際に観劇してみて、100%セリフが分かったときはとっても嬉しかった。また、それだけではなく、役者が実に分かりすぎるほど口を大きく動かし、はっきりと発音していることもわかり、舞台演劇の伝統でことをたいへん大事にしているということも感じた。

先日、アイリス月例研究会で伊勢井敏子先生の「フィンランドの英語教育」の話を伺ったとき、フィンランド語は綴り字通り発音すればそれで通じるので、とても覚えやすいと伺った。実際、英語は綴り字と発音のずれが極めて大きく、このことをよく知っておかないととても非効率な学習をすることになると思う。

具体的に英語の母音を考えてみよう。母音を表す綴り字の種類は極めて多い。例えば、/i:/ の音を表すのに、

ea (eat), e (green), ie (believe), ei (receive), i (vaccine),

その他、「シーザー」は Caesar, 「カギ」は key, 「人々」は people, 「アメーバ」は amoeba, 「波止場」は quay などのように「イー」にあたる綴り字の種類は12種類になる。

一方、同じ綴り字で異なる発音を表す場合もある。一例をあげると、ough で表される発音は

through, thorough, rough, bough, although など6種もある。われわれの先達は英語学習を容易にするために、綴り字に頼らずジョーンズ式発音記号を使うことを提唱し現在の英語教科書や英和辞典などにほとんどすべて使われている。

発音記号を使えばイーの音声は /i:/ 一つでよく、音声中心のコミュニケーション重視の授業によいであろう。しかし発音記号を教えることはただでさえ綴り字を覚えさせるのに大変なのにその上発音記号まで教えることは学習者の負担になるという意見がまかり通る。生徒は英語のテストはペーパーテストなので綴り字を覚えていないと減点されるという恐怖感からか、Wednesday を

「ウェドネスデイ」、Christmas を「チュリストマス」、Lincoln を「リンコルン」などと覚える生徒もいた。l と r がどう違うかは意識にも上らなかった。要するに、「文字が違えばそれでいいとちがう?」という文字依存の考え方が支配的だった。

先日ドライブ中ラジオを聞いていたら、サーカスの話で、盛んに「クラウン」ということばが耳についた。crown (王冠) の意味でなく、clown (道化師) のことを話しておられるのである。「クラウン」はサーカスになくしてはならないなどと言われていたが、日本人の間ではそれでもよいが、英語話者と話すときはどうしても clown と crown とは区別しなければならないものである。「道化師」と「王冠」とは英語教育の始めの段階で明瞭に区別できるよう指導することが望ましい。語頭の区別 (light と right)、語末の区別 (bell と bear)、語中の区別 (collect と correct)、子音連結内の区別 (上例ほか cloud と crowd など) は発音指導シラバスに組み込まれるべきである。

現在の文部省指導要領には文法・文型についてまた必修語については細かな指示があるが、音声については何ら記述がなく、「現代標準英語」の発音となっているだけである。

これでは明確なシラバスが教室指導の各先生の任せられていることになるので、なるべく教室によって差がないような「発音熟達度」のようなものを測定する何らかの共通理解が必要なことを感じていた。カナ表記を発音記号の支援システムとして用いる前にどんな音声をもどのような順序で教えるるとよいかということを明確にすることに取り組んだ結果、次のような10段階10項目を完成することができた。たまたま、ダニエル・ジョーンズ発音辞典第15版の編集を行った、Peter Roach (Reading University) 教授が来日された際にこれら100項目の模範朗読をお願いすることができた。その10段階はまず挨拶で音調や自然さの測定からはじまり、リズムを構成する強勢を測定し、続いて母音と子音とを測定、次に子音と母音の連続を語間でも出来るかどうかを見る。日本語そのものが子音と母音を結合させた文字をもっているので、われわれは無意識に行っている。Thank you. を言うとき、どの日本人も「一キュー」を続けて言っているので、これを拡大して、make it は「メイ`ケィット」のように言えば英語らしさを表すことができる。そのあと、子音連結 (try は to lie にならないように、チュ

アイのように発音するとよい)、同化脱落現象を後半に扱い、最後に場面別会話をチェックするという仕組みである。

現在第一線で英語の発音の悩みを持っている人が少ない。JALT でこのような話をしたとき、近似値としてのカナ表記を含めて、“epoch-making” と言って励ましていただいた。幸い、洋販出版から『カナ活用英語のリズムとレダクション』の題で出版していただいたので、全国的に発音の向上への関心が高まることを期待している。また、筆者自身も「発音講座」を月一回小学館プロダクション社の会議室で行っているが、発音が英語として完成した場合に発音熱速度認定書を発行することを考えている。

あるイギリス人から聞いた話であるが、日本人が l と r が区別できないことが酒の肴にされることがある。日本からの観光客がバッキンガム宮殿に行こうとしてロンドンの警察官に “Where is Palace?” と聞いたところ、その日本人の発音が l の代わりに r だったので、てっきり Paris のことだと誤解され、その親切な警官はわざわざ Victoria Station に案内し、そこからパリ行きの列車に乗せたそうである。

試験のため、入試にパスするためにしか英語学習をしない方式を instrumental learning (手段的学習) とされているが、英語を通して外国人や外国文化と接し、自分の世界観をひろげ、Give and take の気持ちをもって学習する方式を integrated learning (統合学習) と言う。21世紀の世界は英語が日常茶飯事使われることが多くなることを考え、1986年にサンフランシスコ州立大学名誉教授の John Dennis 先生と共著で、『統合的教授法』を1986年に大修館書店から出版したが、発売当時は、多くの人の関心がアメリカの Whole Language とかカナダの Immersion Program の方に注がれ、余り注目されなかった。

中学生の聞き取りと内容理解を3、4割でなく、8割、10割さらにそれ以上に高めるのにはどうすればよいのであろうか。これには心理的、生理的、言語的の3通りのやり方をうまく統合するのがよいと思う。

まず、心理的に言えば、英語は外国語であっても日本語と同じく人間の言語であり、理解できないことはない、やれば誰だって分かるはずであるといわば自分に自己暗示をかけることが大事である。さらにカタカナでも通じる英語にするには、カナに少し工夫をすれば可能である

と考え、日本語に自信をもつことである。筆者は「近似カナ表記」を世に問うて、数年たつので、すでにご存じの読者が多いと思う。

われわれの先達は時間を聞くのに、「掘った芋いじるな」(=What time is it now?) とか、「ごんぼの尻尾?」(=Going on board the ship?)、「上杉謙信」(=West Kensington) など、また、最近では英語の生の音声に接する機会が多くなったせいか、卑近な例がある。

How much? 「ハマチ」(1語のように発音される)

Jack and Betty 「若干便利」(-ck と and の母音はつながる)

(a) cup of tea 「河童亭」(of は t の前で脱落する)

Kill me. 「清美」(l は「ウ」か「オ」に近い)

Tell me. 「手を見」(上と伺じ)

Fax it. 「笛垂苦水」(fuck の連想を避ける)

country 「寒中意」(-try は「チュイ」で「缶取り」ではない)

bill 「美容」(beer を注文したと思われ
ないように)

Not at all 「奈良塔」(子音と母音はつながり、
t は変化する)

こんなことを考えていると紙面がいくらあってもつきない。要は英語を日本人が現状よりももっと向上させるにはどうするかである。読みとれない発音記号を誰でも読めるようにするにはカナなど日本語を工夫して用いるかするしかない。カナを使った方が進捗度ははるかに大きいということを3年前に福島大学の佐久間康之氏が実証したが(於: 郡山高校)、音声学者の意見では、発音記号を使った学習の方が使わないで学習するよりも10倍は能率が上がるとしているが、どなたかさらに実験してもらおうとよいと思っている。

参考資料

島岡丘・鳥飼玖美子『リトルスター英絵辞典』小学館

島岡丘『中間言語の音声学—英語の「近似カナ表記システム」の確立と活用』小学館プロダクション

島岡 丘『カナ活用英語のリズムとレダクション』洋販出版

(茨城キリスト教大学教授)

ASMよりCD-ROM版発行!(Windows版/Mac版)
HANDBOOK OF
TERNARY ALLOY PHASE DIAGRAMS

Edited by: Hiroaki Okamoto, Pierre Villars, Alan Prince

1997年10月刊

1995年5月に刊行された、Handbook of Ternary Alloy Phase Diagrams書籍版全10巻(P. Villars, A. Prince, H. Okamoto 編)は、三元系合金状態図および結晶構造に関する貴重なデータ集として、全世界の大学、研究所等において研究、開発に携わる方々からご好評を頂いてまいりました。この度ASMではPC上のデータベースとして研究者の皆様にお使い頂けるよう、待望のCD-ROM版を発刊することになりました。

このデータベースは3,317の系に関する15,000枚以上の状態図、7,380の系の中間化合物に関する結晶構造データ、43,000件以上の文献データ等を標準化して収録しています。

【サブセット】

今回のCD-ROM化については、下記のような各セクションに分かれて編集されており、完全版のほかにセクションごとの分売も行ないます。

A. Complete Handbook of Ternary Alloy Phase Diagrams

B. Industrial and Heat Resistant Alloys ----- Fe, Ni, Co, Cr, Mo, W, V, Nb, Mn, Hf

C. Light Metal Structural Alloys ----- Al, Be, Mg, Ti

D. Precious Metals ----- Au, Ag, Pt, Pb, Ir, Os, Rh, Ru

E. Rare Earths and Actinides ----- all of the rare earths (Including Y and Sc) and actinide series

F. Carbides and Nitrides ----- C and N

G. Solders, Brazes, and Copper Alloys ----- Pb, Bi, Ag, Au, Sb, In, Ga, Cd, Zn, Cu, Sn

H. Electronic Materials and Semiconductors ----- Au, Si, Ge, As, Ir, Bi, Ti, Sb, Te, Se, Al, Ga

【価格】

本CD-ROMの価格は完全版、サブセット別及びユーザー数、書籍版保有の有無によって(¥100,800～¥1,556,100)それぞれ設定されています。詳細については弊社特販部までお問い合わせ下さい。

ASMハンドブックCD-ROM版：金属物性コレクション

ASM Handbooks on CD ROM.: Metals Properties and Performance Collection.

Vol.1: Properties and Selection of Irons, Steels and High Performance Alloys, Vol.2: Properties and Selection of Nonferrous Alloys and Special-Purpose Materials, Vol.13: Corrosion, Vol.18: Friction, Lubrication and Wear Technology. 1997年

Order #6594 定 価

¥88,560

ASM International 日本総代理店  株式会社 ニュートリノ

本社：〒182 東京都調布市布田1-44-3 高橋ビル

TEL (0424)-84-5550 FAX (0424)-84-5556 e-mail: neutrino@st.rim.or.jp

1997年10月

通巻第365号

洋書輸入協会

編集者 神田 俊二

〒103 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室

☎(03)3271-6901 FAX (03)3271-6920

印刷所＝藤本総合印刷株式会社